

健康保険

2015
November

11

特集

健康保険制度の未来に向けて

従業員そして加入者のために
——健康づくりと健康保険制度の維持に向けて

ポピュレーションアプローチの手法で
事業所や労働組合と連携した保健事業を推進
——マツダ健康保険組合の取り組みから

■健保連・白川修二副会長・専務理事インタビュー
医療保険制度改革へ向けて関係団体と地道な活動にまい進

■健保連記者会見・2014年度健保組合決算見込の概要を発表
7年ぶり黒字決算も、現役世代の拠出金負担は依然重いまま
高齢者医療制度の不合理な過重負担の解消を

やまけんの
日本まるごと
食探訪

高知県・須崎市

健康保険。みらいのために、今、変えよう。

あしたの健保プロジェクト

国

の2016年度予算編成作業がヤマ場を迎えてきている。2020年度に向けて、社会保障関係費の伸びを、高齢化による増加分と消費税率引き上げとあわせておこなう充実などに相当する水準におさめることを目指すとされ、最大の課題が医療などのいわゆる自然増の合理化・効率化に向けた最大限の取り組みである。

第2次安倍政権が発足した2012年12月以降、大胆な金融政策、機動的な財政政策、民間投資を喚起する成長戦略の「3本の矢」の政策を打ち出し、そのもとで株価は2倍超になり企業業績

も過去最高水準に回復してきたが、「円安が輸出増に」「企業業績拡大が設備投資増に」「雇用増が消費増に」という好循環は明確とはなっていない。そうしたなか、安倍首相は、第3次改造内閣の発足にあたり、希望を生み出す「強い経済」、夢を紡ぐ「子育て支援」、安心につながる「社会保障」、という「新3本の矢」政策を打ち出した。

これにより、2020年ごろまでに国内総生産(GDP)600兆円(名目。2014年度491兆円)、2020年代半ばまでに合計特殊出生率1.8(2014年1.42)、2020年代初めまでに介護離職ゼロ、を目指すというものである。その達成のためには年3%の経済成長(物価変動の影響を含めた名目成長率)、社会保障制度の安定化が必要となる。ぜひその実現

安心・安定の医療保険制度の構築を目指して

を期待したいものである。

2016年度予算編成の骨太の方針では、「負担の公平」の観点から介護保険の第2号被保険者の負担する介護納付金についても総報酬割の導入が提示されている。これらは、子育て中の現役世代の負担や事業主負担の増加をもたらし、「新3本の矢」の狙いに逆行するものであり、反対である。

消費税率引き上げによる税収を財源として前期高齢者医療費への公費投入を実現するなど、負担構造の改革を断行されるよう強く要請したい。

また、現下の経済情勢などから消費税率10%への引き上げ延期を求める意見も一部にみられるが、消費税はその税収全てが社会保障4経費にあてられる社会保障目的税であり、税率引き上げ延期は、社会保

障制度に対する国民の不安を一層増大させ、消費を抑制することにもつながる。2017年4月の10%への引き上げ実施に向け、整合性のとれた政策判断を強く要望したい。

なお、スイッチOTC化された医療用医薬品にかかる保険償還率の引き下げ、長らく市販品として定着したOTC類似医薬品の保険適用除外が検討されているが、医療費適正化とセルフメディケーションの促進から、税率引き上げ時にはOTC類似医薬品を軽減税率の対象とすることにについての積極的な検討が望ましい。